（１）工事コストの低減
①計画手法の見直し

山岳道路における道路構造見直しによるコストの縮減

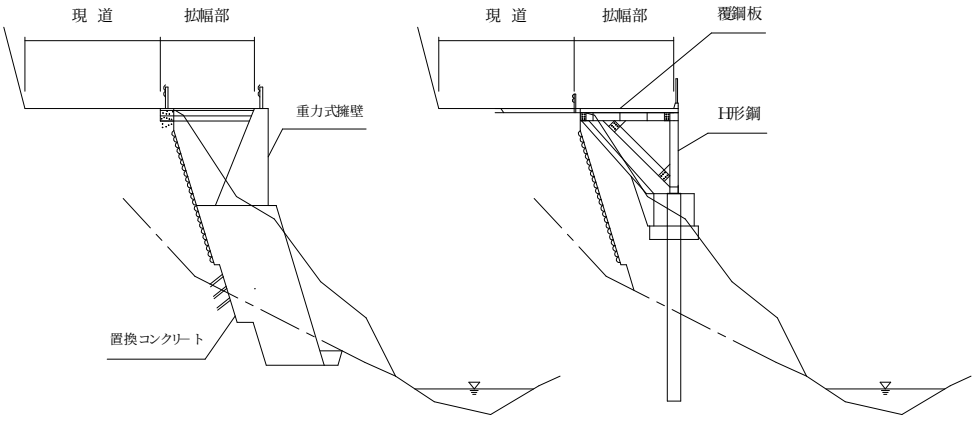
水資源開発公団滝沢ダム建設所　現県道拡幅工事

【施策の概要】

山岳地における現道拡幅工事は、通常山側の地形が急峻であるため川側にコンクリ-ト擁壁を設置して洪水に対して護岸機能を確保しつつ、一般通行の確保を図りながら道路の拡幅を行っています。しかし、この工法では擁壁のコンクリート量が多くなる傾向から費用がかかっていました。

滝沢ダムでは、現県道を付替県道の工事用道路として使用するために拡幅するもので、使用期間は３年程度であることを考慮して、従来のコンクリート擁壁構造に替えて鋼桟橋形式を採用することにより、工事コストの縮減に努めました。

【施策のポイント】

・鋼桟橋形式を採用することにより、コンクリート量を削減することが出来る。
・鋼桟橋形式を採用することにより、河川の流下断面を削減することがないので、出水時の安全が確保出来ます。
・本工事においては、工事用道路及び使用期間を考慮して計画を見直し、従来工法と比較して６５％の工事コスト縮減が図られました。

【施策の実施状況・イメージ図】